

イネ科通信 2

(神於山観察会から)

1. キツネガヤ

(平凡社のイネ科図譜より)

平地から低山にかけ、半陰地に普通な多年草。稈は高さ 60~100cm、節の下部には下向の毛が生える。葉身は 25~40cm、幅 4~7mm、やや密に短毛があり、深緑色で光沢がある。葉鞘は完筒形、葉舌は高さ 1~2mm。円錐花序は長さ 20~30cm、各節 2本の枝を出し、枝はざらつき、濃緑色の小穂をまばらにつけ、花序全体が下向きに垂れる。以下略。

(注1) 葉身は反転する。(注2) 花序の枝数は各節 2本に限らない。



キツネガヤ



アオカモジグサ (葉身の反転)

2. 葉鞘について

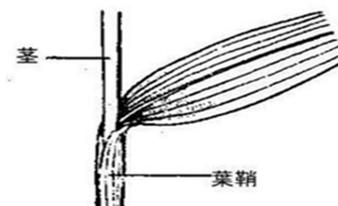
イネ科の葉は葉身と葉鞘からなっています。イネ科の大半のものは右下図のように和服のように前で閉じています。また、ワンピースのように閉じた葉鞘を完筒形(かんづつかた)といいます。

これは多分、和服形 中間形 完筒形(ワンピース形)というように稈を強化する方向に進化したと思われます。事実、中間形のものもあります。葉鞘にも注目です。

(注) イネ科用語では茎を^{かん}稈と呼びます。

3. 完筒形の葉鞘

キツネガヤの他にスズメノチャヒキ、ヒゲナガスズメノチャヒキ、イヌムなど多数あります。



4. 日本イネ科図譜(平凡社、長田武正著)について

イネ科を学習するためには平凡社の『日本イネ科図譜』が大変役立ちます。以下は図譜の序から抜粋したものです。

この書物の計画は、故大井次三郎先生を御自宅におたずねした時にはじまる。思うに日本くらい、多くの美しいカラー刷の植物図鑑が出版されている国は世界にないといっている。たいていの花はこれらの図鑑を通してその名を引き出せる。……ただ、大井先生のご専門のカヤツリグサ科とイネ科の植物になるとこうゆうわけにいかない。……

せめて日本にごく普通にみるイネ科だけでも、誰もが引き出せるような図鑑ができないだろうか。図は筆者が描いて、大井先生に、正確な記載、説明をつけていただく。……

でき上がった図は大井先生に送って見ていただいて、当方からなんの説明もなしに、先生が名をあてたら合格、当たらなければまた描き直し。合格図がほぼ 70 枚たまったとき、突然、大井先生のご逝去の報に接し、啞然としてしまった。もう、やめるか、いやここで止めたら、またしばらく日本のイネ科は日本中の植物研究者からまま子扱いにされてしまうだろう。しかも、こうして図を描いているうち、その花は小さく地味であっても、構造はまことに千差万別、じつに興味深い植物群であることが自然にわかってきていた。やはり、続けよう。あの誰にも親切でやさしく、人に知識を与えることを少しも惜しまなかった大井先生との約束を果たすために。